

「脾 Solid-pseudopapillary neoplasm のとりうる小嚢胞構造の臨床病理学的検討」

松山赤十字病院病理診断科では、2016年より上記標題の臨床研究において分担研究者として参加しております。本研究の概要は以下の通りです。

1) 研究の背景と目的

SPNは、若年女性に多くみられる充実成分(solid)と嚢胞成分(cyst)からなる低悪性度の稀な脾原発腫瘍で、病理学的には異型に乏しい腫瘍細胞が毛細血管間質を取り囲むように偽乳頭状(pseudopapillary)に増殖することを特徴とします。病理診断については、顕微鏡的に典型的な充実・偽乳頭状構造をとるものについてはHE像で容易に診断可能であり、画像の報告も散見されます。

一方で、小嚢胞構造(microcystic pattern)あるいは網状構造(reticular pattern)のように典型的ではない構造をとることも稀ではありません。この構造について統一された呼称や組織所見の詳細について言及した報告は少なく、顕微鏡での形態診断に難渋することがあります。

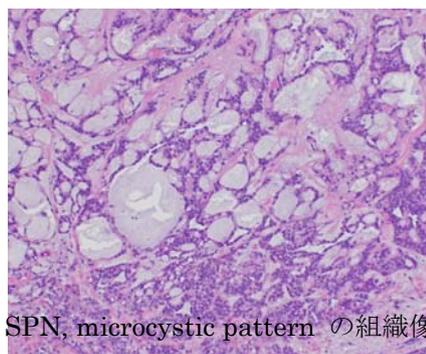
そこで我々は、それらの構造をとるSPNについて、頻度・形態的特徴・間質の性状・免疫組織化学染色所見について詳細に検討し、類似の形態をとる脾腫瘍(Serous cyst neoplasm)との比較も行います。このように、microcystic patternの形態的特徴を詳細に解明することで、SPNの形態診断の一助となると考えています。

2) 研究の対象

1995年8月15日から2014年2月21日までの期間に当教室および関連施設において病理診断を行ったSPN切除症例44例、Serous cystic neoplasm(SCN)切除症例14例を対象とします。症例の内訳は、九州大学病院病理診断科において診断されたSPN34例とSCN14例、大分赤十字病院病理診断科と松山赤十字病院病理診断科で診断されたSPN5例ずつです。対象者となることを希望されない場合は下記連絡先までご連絡をお願いします。

3) 研究の内容

- ① すでに切除されたSPN、SCNのパラフィン切片を使い、臨床情報やHE染色の所見から、通常型とmicrocystic patternの臨床病理学的因子(年齢、性別、主訴、占拠部位、画像的評価、針生検での所見、腫瘍断面の性状、腫瘍径、分化度、腫瘍細胞の性状、間質の性状、脈管侵襲の有無、脾周囲組織への浸潤の有無、リンパ節転移の有無、遠隔転移の有無)を抽出して比較検討します。
- ② β -catenin, E-cadherin, CD56, CD10, AE1/AE3, PgR, ERの発現を免疫組織化学染色により調べます。
- ③ 通常型のSPNとmicrocystic patternを伴うSPNとで免疫染色の発現の差異があるかを調査し、差異があればその原因を検討します。



SPN, microcystic pattern の組織像

- ④ Alcian-blue 染色, Hyaluronidase 消化 Alcian-blue 染色で間質粘液の評価を行い、microcystic pattern 形成と間質との関連を検討します。
- ⑤ 類似の構造をとりうる腭腫瘍である serous cyst neoplasm (SCN)との臨床病理学的比較を行います。

4) 個人情報の管理

形態機能病理学において、患者氏名およびカルテ番号は消去され、代替する登録番号にて連結可能匿名化しております。この際、登録番号とカルテ番号の対応表のファイルにはパスワードを設定し、形態機能病理学分野内の、外部と接続できないパソコンで管理します。このパソコンを設置する部屋の鍵は、研究責任者のみが保有し、入退室を管理します。このため、第三者が、当分野の職員やデータベースへの不正アクセスを介さずに、直接患者を識別できる情報を閲覧することはできません。また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

5) 研究期間

2016年 研究倫理審査委員会 承認日より、2019年3月31日までです。

6) この研究に参加した場合に受ける利益、不利益、および医学上の貢献

この研究を行うことで患者さんにとって、日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。なお本研究により被験者となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが、研究成果はSPNの形態診断の一助になり、多くの患者さんに貢献できる可能性が高いと考えます。

7) データの二次利用について

この研究において得られた患者さんのパラフィン切片や情報等は原則としてこの研究のために使用し、研究終了後は、九州大学大学院医学研究院形態機能病理において同分野教授小田義直の責任の下、10年間保存した後、研究用の番号等を消去し廃棄します。しかし、上記の試料、データ等は、将来別の医学研究に二次利用する目的で前述の期間を超えて保存する可能性があります。データの二次利用を行う場合には、改めてその研究計画を倫理審査委員会において審査し、承認された後に行います。

8) 利益相反

この研究に関して利害関係が想定される企業等で研究責任者や分担者が活動して収入を得ているようなことはありません。

9) 研究計画書および個人情報の開示

患者さんがご希望の場合は研究計画書および資料等の提供または閲覧が可能です。また患者さん本人の開示の求めに応じて、保有する個人情報のうちその本人に関するものについては開示いたします。

この研究における問い合わせ先

医療機関名： 松山赤十字病院 病理診断科
所在地： 790-8524 松山市文京町1番地
電話番号： 089-924-1111（代表）
研究担当者： 大城 由美